

## NPO法人 こんぶくろ池自然の森 湧水の恵みを市民が守り育てる“100年の森”



柏の葉キャンパス駅から徒歩20分ほどの市街地に残された東京ドーム3個分に及ぶ森。オオタカや野ウサギが生息し、湧水池から清流が流れるこの森が今、「こんぶくろ池自然博物館」として生まれ変わろうとしています。ヒートアイランド現象を緩和する豊かな自然を保全し、市民の憩い・教育の場に生かそうと、行政・市民が連携し森の整備を進めてきたボランティア活動は、この4月にNPO法人となり活動展開が本格化しています。

### オオタカが棲む貴重な自然

地表近くにたまった地下水がしみだして湧水池となった「こんぶくろ池」と「弁天池」。手賀沼の源流ともなるこの池の周りには、緑豊かな湿地が約20ヘクタールも広がっています。

多様な植物が生育し、ズミやキンランなど「千葉県レッドデータブック」で指定された絶滅危惧種の植物が30種類近く群生。オオタカやカワセミなども生息しているこの生態系は、近隣の東京大学、千葉大学の研究フィールドとしても活用されています。

不思議な民話もたくさん残されています。例えば、「池に浮かんでいるきれいな小袋が、取ろうとする度に沈んでしまう」といった話や、「池の主は大蛇である」といった話。こうした言い伝えは、「むやみに人を立ち入らせずに水源や自然を保護するために作られたもので、古くから脈々と守られてきた場所で

あることの証」なのだと、NPOこんぶくろ池自然の森 副会長の八代英二さん(69)は説明します。

### 荒廃した自然を取り戻す

このこんぶくろ池、実は数年前まではゴミの不法投棄が氾濫し、森の中にはトラック数台分に及ぶゴミが山積している悲惨な状況で、市民は誰も寄り付かない場所となっていました。

こうした状況を見かねた近隣住民が立ち上がり、柏市とともに整備方針の検討を開始しました。この一帯を「こんぶくろ池自然博物館」と名付け、“市

民で育てる100年の森”をコンセプトに整備の基本計画を2005年に策定。その翌年、公園を維持管理する市民ボランティア団体として、整備を担当する「里山隊」と生態系の調査を担当する「調査隊」が発足し、市民による公園づくりがスタートしました。



活動開始当時、家庭ゴミはもちろん、自動車まで不法投棄されていた。



春の桜に秋の紅葉と、四季折々の風景が楽しめる。



絶滅が危惧されるズミ(左)やキンラン(右)など、貴重種も力強く息づいている。



## NPO法人 こんぶくろ池自然の森

### 市民の手で里山が再生

里山隊はまず、密生していた樹木を適度に伐採して森の再生を進めました。おかげで、今では太陽光が射し照らす明るい森に。

発芽できずに休眠していた埋土種子も芽生え、ツネフリソウや要保護生物に認定されているノジトラノオなどの群落が再生。ツリフネソウの蜜を求め、マルハナバチやヒメクロホウジャクなどの珍しい昆虫類も集まるようになりました。

「自然の森」というとまったく人の手を入れないほうがよいと思いがち。でも、多様な生態系を維持するためには適切な管理が必要なのです。

また、豊かな自然を教育にも生かそうと、伐採した竹を使った親子工作教室を開催。会員の古橋勲さん(64)が講師となり、ナイフやキリなど工具の使い方を指導し、竹とんぼやゴム鉄砲づくりを行いました。古橋さんは、「手を入れることで森が綺麗に変わっていくのが楽しみ。地域の若い人にも自然の魅力を知ってもらう機会をつくっていききたい」と気合が入っています。工作教室は、今年も夏休

み期間中の毎週土・日に実施する予定です。

### NPO法人として活動開始

これまで里山隊・調査隊と役割分担してきた活動を一本化し、4月からは「NPO 法人こんぶくろ池自然の森」として再スタートします。

NPO 法人としての活動を選択したのは、公園の整備が進み知名度が上がるにしたがって、公園内の貴重な植物を盗掘してしまうなどの心無い行為が増えてしまった悩みから。自然を守りながら多くの方が公園を楽しめるよう、NPO 法人にして活動を本格化し、散策のルール作りやパトロールなどの監視強化を進めていきます。

副会長の八代さんは、「私たちの活動は“安全に・無理せず・楽しく”がモットー。ボランティアによる自主参加だからこそ、自由な活動が広がっている。今後も多くの市民の方に参加してもらい活動をさらに発展させていきたい」と意気込みを語ってくれました。

同会では、現在会員を募集中。活動紹介のセミナーを4月下旬から実施予定



原則的に月2回(第2・第4土曜日)活動を行う。散策路やベンチづくりなど、公園の整備も進める。

です。また、柏の葉アーバンデザインセンターで4月18日～5月6日に開催される市民活動グループの展示会にも参加予定。これまでの活動風景やこんぶくろ池の美しい写真が展示されます。

問い合わせは、NPO 法人こんぶくろ池自然の森 副会長 八代英二さん  
 [TEL] 04-7169-4089  
 [Eメール] info@konbukuroike.com  
 [WEB サイト]  
<http://www.konbukuroike.com/>  
 (4月下旬 OPEN)



**森 和成 氏**  
 NPO法人こんぶくろ池自然の森 会長  
 1970年生まれ。青山学院大学経営学部を卒業後、株式会社ビジネスコンサルタント入社。アクセンチュア株式会社でディレクターを務めた後、2005年に株式会社アールギア・グループを設立し、代表取締役就任。

## キーパーソン・トーク

柏市の中心部に住んでいましたが、目の前に自然が広がる場所に住みたいと考え、9年前にこんぶくろ池公園の近接地に引越してきました。

ここは、カブトムシが1本の木に一晩で30～40匹も集まる豊かな森。自然の生態系に触れることが少ない子どもにとっては良質な教育現場にもなります。しかし、引っ越してきた当初はゴミの投棄が酷く、森もうっそうとしていたため、なんとかしようと市に相談を持ちかけました。ちょうど市や市民委員が公園整備へ向けた基本計画を策定し、市民ボランティアが立ち上がるようになっていた

ため、里山隊の活動へ参加しました。

経営コンサルタントを生業としていますが、活動から学ぶことは多いです。会員の皆さんはそれぞれの関心や特技を生かし、工作やきのこの調査など自主的な活動が生まれています。私も興味湧いたところから、森林ガイドや自然活動体験リーダーの資格を取得しました。今後は、その知識も生かして体験見学会やセミナーを定期的開催し、啓発活動を通して「私たちの森」という意識を持った人が集まり楽しめる公園にしていきたいです。

### □編集後記□

取材当日、幸運にも天高く飛ぶオオタカを目撃し、一同大興奮。この街では、開発によって新しい住民が増えるとともに、森の再生によって草花や動物も引っ越してきたようです。100年後も、人もオオタカも住みやすい街でありつづけたいですね。(蛭川)

●このニュースレターに関するお問い合わせ先

柏の葉アーバンデザインセンター (UDCK) 広報担当 小林、蛭川  
 〒277-8518 千葉県柏市若柴字元堂178-3 柏の葉キャンパス駅前148街区3画地  
 TEL 04-7140-9686 FAX 04-7140-9688  
 E-MAIL ma-kobayashi@udck.jp WEB <http://www.udck.jp>

柏の葉  
 アーバン  
 デザイン  
 センター

UDCK